

2018年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	あさぎり・おおくら総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	朝霧、大蔵

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○地域住民が集まる各種会合や催し、サロンなどに参加しセンターの周知を行った。</p> <p>○民生児童委員だけでなく、地域住民、医療機関、公共施設、商業施設等、様々なところから相談を受けた。</p> <p>○高齢者以外の幅広い年代の人に関する相談を受けた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>特に民生児童委員と緊密な連携が図れた。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>相談内容を分析するなど、十分な予防的対応ができていないとまではいえない。</p>
権利擁護事業	<p>○地域住民が集まる各種会合や催し、サロンなどに参加し、高齢者虐待防止等の周知を行うとともに、参加者から状況等の把握を行った。</p> <p>○生活支援コーディネーターとともに地域住民が集まる各種会合等に参加し、参加者からの様々な声を聞くことができ、虐待等の兆候の早期に把握ができた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域住民、民生児童委員、ボランティア等との適切な連携を図ることができる。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>居宅介護支援事業所、サービス事業所への相談のタイミングについての啓発が不十分であった。</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○地域の介護支援専門員、専門職と交流会を開催しネットワークの構築に努めた。</p> <p>○介護支援専門員の実践力向上を図るため、特定事業所の開催する事例検討会に企画段階から参加し、共催により実施することができた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>多様な関係機関とのネットワークの構築を図ることができている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>事例検討会等から地域課題を抽出することができていない。</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○相談支援包括化推進会議(月1回)で、グループスーパービジョン形式による事例検討を行い、多機関との連携や多機関の機能についての理解を深めた。</p> <p>○他機関(あかし保健所・後見支援センター・生活福祉課)と互いの機能を理解し連携できるよう意見交換会を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>多機関と連携して支援を行う機会が増え、顔の見える関係性を築いている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>総合相談支援員の役割の周知が不十分である。</p>
生活支援体制整備事業	<p>○虚弱なふれあい会食参加者の送迎支援を目的に、コープの買い物送迎支援サービス(買い物行こカー)の活用を検討中である。</p> <p>○まちづくり協議会をはじめ、校区内のサロン・自治会や地区民協等の会議・行事へ積極的に参加し、生活支援コーディネーターの役割の説明を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域課題を住民とともに協議できる関係形成を図ることができた。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>生活支援コーディネーターの役割の周知が不十分である。</p>
認知症総合支援事業	<p>○サロンやボランティア活動に参加し、参加者からの相談等を積極的に聞くことができ、認知症相談窓口の周知を行うことができた。</p> <p>○地域住民やボランティアグループ等から認知症サポーター養成講座の開催依頼を受け、講座を開催するとともに、参加者のニーズに合わせた形で学習会を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域住民、民生児童委員、ボランティア等との適切な連携を図ることができる。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>普段、高齢者にかかわらない地域住民への認知症の啓発が十分行っていない。</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○9月～11月にかけて教室を開催した。どちらも定員を上回る申し込みがあった。教室終了後の自主グループへの移行支援も行った。(現在も継続しており、毎回20人前後が参加し、地域住民による自助、共助の場となっている。)</p> <p>○まちなかゾーン会議を3・4か月に1回開催し、地域住民と専門職で地域課題の検討を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>地域住民が集まりやすい場の設定を行うことができるなど、地域特性を十分把握できている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>通いの場に参加しない住民(健康意識が低いと見込まれる地域住民)へのアプローチができていない。</p>

2018年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	きんじょう・きぬがわ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	錦城、衣川

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○広報誌や地区民協、まちなかゾーン会議等を通じて、地域住民にセンターの周知を図った。</p> <p>○受付シートを全職員が利用し、相談レベルの判断を行うことができている。相談内容に応じて、誰もが適切に対応できるよう、ファイル化して窓口を設置している連絡先等は適宜更新している。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>市庁舎内にあるため、一度の来所で利用者の要望している相談を他部署との連携のもと、支援している。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>課題を抱えた人を発見し、アウトリーチをしてもなかなか支援につながらなかったことがあった。</p>
権利擁護事業	<p>○校区内の訪問介護事業所に対して、高齢者虐待防止啓発講座、訪問介護員との意見交換を行った。</p> <p>○地区民協やサロンにて消費者被害の現状と予防のための啓発活動を行った。</p> <p>○ケース対応や事業所巡回を通じて、居宅介護支援事業所との顔の見える関係づくりを行い、虐待ケースの相談を受けるための体制づくりを行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>居宅介護支援事業所から早期に消費者被害の相談があるなど事業所との連携体制がある。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>地域住民から相談がある地域と少ない地域があるため、課題を把握できる地域づくりが必要である。</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○校区内の居宅介護支援事業所の巡回訪問を行い、センターの周知を図った。</p> <p>○ネットワークづくりの一環として、校区内の居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、障害福祉サービス事業所等を対象に交流会を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>交流会や日々の活動からネットワークができており、居宅介護支援事業所以外からの相談も増えてきている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>居宅介護支援事業所間のネットワークの構築に向けた支援が不十分である。</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○生活福祉課、障害サービス事業所、保健所等と複合課題を抱えるケース支援を行った。ひきこもりや障害が疑われるケース等狭間のケースに対する支援を行った。</p> <p>○相談支援包括化推進会議等を通して、他機関の機能や役割を理解し、実践に活かしている。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>ケース等を通して、他機関のセンターに対する理解が進んでいる。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>制度の狭間で支援が停滞しているケースについて、他機関との課題を検討をする機会が少ない。</p>
生活支援体制整備事業	<p>生活支援コーディネーターが、ボランティアグループ等の活動場所に出向き、参加者や代表者と関係性を構築し、各団体が抱える課題についてともに話し合い、今後の活動の方向性について検討の機会を得ることができた団体がある。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>住民と地域課題を共有できる地域づくりを行えている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>関係性を築きにくい住民に対するアプローチできていない。</p>
認知症総合支援事業	<p>○認知症サポーター養成講座の開催依頼を受け、講座を開催するとともに、団体の課題等を把握した。</p> <p>○校区内のサービス事業所を対象に、認知症の人の軽犯罪に関する勉強会を開催した。</p> <p>○高年クラブ等に対して、人権学習会の一環として、認知症に関する学習会を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>校区内に精神科・心療内科が多く、医療機関の連携を密にし、受診に繋がるよう支援できている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>認知症当事者や家族が集える場づくりの取組が不十分である。</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○自主グループ活動が少ない地域で教室を開催し、自主グループの立ち上げ支援を行った。</p> <p>○まちなかゾーン会議で地域の課題を検討し、「誰もが気軽に見守り・挨拶できる地域」づくりを目標とする計画を、メンバーとともに作成し、その検討の経過を広報誌に掲載し、見える化を図った。(行事化していた取組を地域課題の検討の場へと変えるよう取り組んだ。)</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>錦城地区においては、ゾーン会議の事務局が総合支援センターに変更されたことをきっかけに、センター3職種がメンバーの身近な困りごとを地域課題に抽象化し、メンバーが検討するための時間を会議内で作った。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>いきいき元気アップ教室から、自主活動グループへの移行に向けて地域のリーダーを養成する取り組みに工夫が必要である。</p>

2018年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	にしあかし総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	望海、野々池

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○地域ボランティア等が地域福祉活動を行う場へ積極的に参加しセンターの機能、内容について周知を図った。</p> <p>○子どもの不登校、障害のある中高年の居場所等の相談に対しては、支援のノウハウがないため、多機関連携で解決につなげた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民へのセンター機能の浸透 ○地域住民とセンター職員の関係性の構築
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者以外の相談機関や知識習得が不十分 ○複合多問題の円滑な連携が図れていない。
権利擁護事業	<p>○高齢者を支援する関係機関等へ高齢者虐待対応の基礎的な研修を行うなど、高齢者虐待防止の取組を行った。</p> <p>○地区民児協や地域サロン等で消費者被害に関する情報提供、注意喚起を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民、介護支援専門員への意識啓発 ○地域住民同士の見守りネットワーク強化
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消費者被害を予防する取組が不十分
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○圏域内の居宅介護支援事業所を巡回訪問し、センターの機能等を周知するなどを行った。</p> <p>○市全域の介護支援専門員のスキルアップを目指し、研修の企画・運営に参画した。</p> <p>○円滑な連携促進のための懇談会を開催。民生児童委員と介護支援専門員との懇談会を2回開催。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民や民生児童委員等へのセンター機能の浸透 ○地域住民とセンター職員の関係性
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○圏域内の主任介護支援専門員への地域づくりの働きかけが不十分
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○個別ケースワーク領域では多機関の相互理解の促進に努めたことでケース課題の解決を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合相談の考え方に対する職員の意識の高さ
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域総合支援センター及び総合相談支援員の役割の周知が不十分
生活支援体制整備事業	<p>○「みんなの広場」にて地域劇「遠距離介護」「災害とつながり」を通じて、住民と専門職が課題解決に向けて検討した。</p> <p>○「ののいけ耳より交流会」を小学校区単位で開催し、住民と専門職と一緒に地域課題を我が事として考えた。また、介護技術を学び、地域福祉力の向上が必要な地域の状況を啓発した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民と専門職が、地域課題を「我がこと」として共有し、考えることができた。
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○センター職員の経験の差により、目標設定やプロセスのイメージの共有が十分ではない。
認知症総合支援事業	<p>○認知症サポーター養成講座を開催した。</p> <p>○認知症総合相談窓口の対応マニュアルについて、センター内で周知し、対応が統一できるように努力した。</p> <p>○認知症初期集中支援チーム活動を実施した。</p> <p>○要援護者見守りSOSネットワーク声かけ訓練に協力し、住民と認知症の人への見守りや声掛けに関する検討に協力した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の認知症の人の見守りの充実の進展 ○地域住民から認知症の人の相談の増加
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当事者や家族のニーズ把握や資源とのマッチングが不十分 ○認知症に特化した当事者や家族が互いに支え合える仕組みの構築が不十分
いきいき！元気アップ教室等	<p>○DVD・CDに合わせた健康体操を行い、自主グループへの移行後、各グループが楽しんで実施できるメニューを検討した。</p> <p>○参加者の確保に向け、地域への情報提供等を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小規模多機能型居宅介護という資源の活用 ○不全麻痺のある人や痛みのある人も参加できる教室づくり
		<p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主グループ移行後の運営支援 ○健康意識が低い人へのアプローチ

2018年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	おおくぼ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	大久保、江井島、大久保北、高丘

区分	内容	質的評価
総合相談事業	○来所、訪問等、相談者の希望に沿い相談対応できた。 ○地域住民向けのセンターの広報誌を発行し、地域の身近な相談窓口と認識してもらうため、センターの役割の周知に努めた。	【強みと考える点】 センター全員が対応レベル①②の相談に対し、適切に対応できた。
		【弱みと考える点】 高齢分野以外の相談があった場合に、スムーズに多機関につなぐことが難しい。
権利擁護事業	○事例について定期的・必要時に適宜三職種と生活支援コーディネーターと共有し、計画的に対応するとともに、支援機関と連携した。 ○早期発見早期対応を目指し、居宅巡回時や民児協でセンター広報誌を配布することで啓発を実施。	【強みと考える点】 センター内でケース進捗確認・評価会議を実施。他機関と適切に役割分担できた。
		【弱みと考える点】 地域住民、サービス事業所への高齢者の権利擁護意識向上の働きかけが不足している。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	○顔の見える関係性づくりのため、年度当初に校区内の居宅介護支援事業所を訪問し、その際に各地域資源の一覧を配布した。 ○校区内の介護支援専門員の有志が実施する事例検討会の立ち上げに協力したことにより、多くの介護支援専門員との連携を深めることができた。	【強みと考える点】 生活支援コーディネーターと連携し、地域行事への参加を通じて、様々な情報を介護支援専門員に提供できる。
		【弱みと考える点】 介護サービス事業所との関係構築が不十分
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	○センターの役割について住民、センター内、関係機関に対してあらゆる機会をとらえて周知を行った。 ○関係機関との連携を通じて関係機関相互の理解促進に努めた。	【強みと考える点】 センター職員にどのような相談であってもまずは受け止める意識がある。
		【弱みと考える点】 センターの役割等の周知が不十分
生活支援体制整備事業	○各校区で地域組織の会議に参加し、ともに各種行事、教室を実施した。 ○我が事の地域づくりの意識啓発としてプレゼンを実施した。	【強みと考える点】 地域組織との関係性強化
		【弱みと考える点】 幅広い対象からのニーズ抽出
認知症総合支援事業	○中学校区ごとに認知症の勉強会(認知症サポーター養成講座含む。)を各3回以上実施。 ○地域の専門医を講師とする講演会(まち協とまちなかゾーン会議の共催)には188人の参加があり、認知症の正しい理解の啓発につながった。 ○個別ケース対応において、本人・家族の意向を聞きながら訪問を重ね、地域の見守りネットワーク構築のための地域ケア会議を実施した。 ○健康教室やサロンで社会参加による、進行・重症化の予防を働きかけた。	【強みと考える点】 特に生活支援コーディネーターの地域の把握力
		【弱みと考える点】 認知症カフェの立ち上げ支援が不十分
いきいき！元気アップ教室等	○江井島：江井島コミセンで実施。会場の設備や会場費の負担の問題があり、フォローを継続している。 ○大久保北：2か所で立ち上げを実施。それぞれの立ち上げ場所の特性を生かしながら、運動の継続ができています。	【強みと考える点】 住民との関係構築により協働が図りやすい。
		【弱みと考える点】 センターのいきいき！元気アップ教室の取組への工夫の不足

2018年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	うおずみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	魚住東、魚住

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○自治会、高年クラブ、コミセン、コープ、サロン等地域住民が集まる活動拠点に積極的に出向き、介護予防に関わる情報提供等を通じ顔の見える関係性を作り、多種多様な相談が受けられる旨啓発した。</p> <p>○相談やゾーンメンバー、隣人等からの情報をもとに実態把握を行い、必要に応じて専門職、行政、民生児童委員等と連携して対応した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○健康寿命の延伸のため、本人の生活上の工夫の承認と、地域資源への繋ぎを重視した社会参加の促進</p> <p>○地域の医療機関との連携体制の構築</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>○出張相談の開設に関する地域ニーズを十分把握できなかった。</p>
権利擁護事業	<p>○居宅事業所に出向いたり、圏域内のケアマネジャーに対し、高齢者虐待予防についての講義を行った。</p> <p>○地域ケア会議に民生児童委員等に出席いただくなど日頃から関係性を保ち、気になる方の情報収集を行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○センターと民生児童委員、LSA等との関係性が良好で、早期発見、早期対応につながっている。</p> <p>○住民への啓発が不十分</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○地域の介護支援専門員と定期的な連絡会と事例検討会を共催し、問題と課題の整理を行うことで介護支援専門員の支援の質の向上を図った。</p> <p>○地域のサロン、サテライト等に参加し、地域との交流を深めた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○圏内の居宅介護支援事業所と支援の質の向上の重要性を共有でき、ネットワークの構築と主体的な学びの会が実施できた。</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>○個々の介護支援専門員からの相談内容の整理・分析が不十分</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○月1回、GSVの形式の関係機関からなる事例検討会を行った。それを通じて、各相談支援機関の業務内容の理解や連携方法を学んだ。</p> <p>○多機関協働のための意見交換会（保健所・後見支援センター・生活福祉課）を実施した。各々の職務内容や支援方針を把握し、複合多問題に対して今後連携協働できる基盤の第一歩となった。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○GSVに児童の事例を提出し教育関係者の職務内容を学び連携を図ることができた。</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>○50代男性の生きづらさを抱える人の居場所等、社会参加の機会の検討にとどまっている。</p>
生活支援体制整備事業	<p>○センター圏域で「認知症をつつむまちづくり」への取り組みとして、認知症を排除しないまちづくりの啓発講演会と家族会の声を聴く学習会を開催し多数の参加者があった。</p> <p>○認知症カフェ喫茶にしきの立ち上げ・運営支援を行った。</p> <p>○魚住まち協の防災会議に要援護者の視点から関わり防災訓練や自主防災計画の策定を支援した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○認知症への関心の高まりと、住民主体による認知症カフェの運営</p> <p>○住民との信頼関係の構築</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>○地域支え合いの啓発が不十分</p> <p>○地域の支え合いの見える化が不十分</p>
認知症総合支援事業	<p>○継続的な認知症勉強会や認知症介護教室を開催した。</p> <p>○年齢や団体種別に合わせた認知症サポーター養成講座を開催し資料や媒体の工夫を行った。</p> <p>○認知症なんでも相談にて認知症地域支援推進員に上がったケースをセンター職員につなぎフォローを行った。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○ワークショップを契機とする継続的な勉強会の開催</p> <p>○認知症予防サロンの継続開催による参加者同士の支え合いの構築</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>○若年性の当事者・家族に対する社会資源の情報提供等の相談体制が十分ではない。</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○住民の身近な場所である魚住東中学校コミセンで「いきいき！元気アップ教室」を開始し、その後、自主グループ活用として継続できている。</p> <p>○中学校区ごとに「まちなかゾーン会議」を開催し、住民に身近な圏域において、住民・福祉関係者・医療職と連携を図っている。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>○認知症や閉じこもり予防となっている。</p> <p>○健康教室の開催による地域の医療職と住民とのつながりづくり</p> <p>【弱みと考える点】</p> <p>○まちなかゾーン会議の運営方針の地域への周知が不徹底（来年度は健康教室で周知予定）</p> <p>○新たな住民の集える場所を探し、いきいき元気アップ教室を行っていく。</p>

2018年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	ふたみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	二見

区分	内容	質的評価
総合相談事業	<p>○3職種間で総合相談対応上の課題、対応策の検討・共有化を図った。</p> <p>○二見校区の地域ボランティア団体、居宅介護支援事業所、専門相談機関等の社会資源の把握を行った。</p> <p>○最も身近な民生児童委員・主任児童委員との相互連携を強化し、地域の困りごと等を迅速にセンターに繋いでもらうためのネットワーク構築に努めた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>民生児童委員との連携強化による相談支援のつながりやすさ</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>子ども分野・障害分野における相談対応能力、支援機関とのネットワークの構築が不十分</p>
権利擁護事業	<p>○ケース対応を通じて、介護支援専門員やサービス事業所の職員と実際の対応の動きを共有し、虐待防止に努めた。</p> <p>○民児協・サロン・その他の地域活動の拠点等において、高齢者虐待防止、消費者被害の啓発等を行い、地域対応力を向上させた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>日頃の関係性から対応をスムーズに行える。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>虐待ケースの対応を経験していない事業所等に対し、対応スキルの周知が不十分</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<p>○地域の介護支援専門員と定期的に連絡会を開催し、業務上の情報共有や災害時の個別支援計画立案等に向けた事例検討会等に取り組んだ。</p> <p>○地域の介護支援専門員と協力して大型商業スペースでサテライト相談会を継続的に開催し、地域の介護ニーズの把握に努めた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>二見まもろう会を活かした地域の介護支援専門員やサービス事業所との円滑な連携</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>主体的な活動団体である二見まもろう会へのサポートが不十分</p>
多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業	<p>○相談支援包括化推進会議にて個別事例の課題抽出を行うとともに、各相談支援機関の業務や機能についての理解を深め、具体的な連携方法の検討等を行った。</p> <p>○あかし保健所・後見支援センター・生活福祉課(生活再建)と意見交換会を実施し、多機関連携時の課題や成果、連携ポイントについて共有した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>高齢分野以外の相談支援機関との連携する上での敷居の低さ</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>センター機能等の周知が不十分</p>
生活支援体制整備事業	<p>○人材バンク的なしくみづくりとして、二見地区応援カード様式についてボランティアサポーター、ボランティア育成アドバイザーへ協力依頼を行い、運用(集め方と活用方法)のしくみづくりの検討を開始し、高齢者大学生から「個人情報なし版(試作品)」を収集した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>二見校区ボランティアサポーター、ボランティア育成アドバイザーと協働の場を持っている。</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>人材バンクの運用に向けた課題整理の必要性</p>
認知症総合支援事業	<p>○認知症に対する正しい知識や介護、支援方法を伝える取組として、認知症サポーター養成講座、要援護者SOSネットワーク声かけ訓練を開催した。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>キャラバン・メイトの認知症に関する取組の意識醸成</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>地域で当事者や家族が集える認知症に特化した場の提供が不十分</p>
いきいき！元気アップ教室等	<p>○二見西小学校区で「いきいき！元気アップ教室」を開催し、自主グループ化への支援を行った。</p> <p>○高齢者がができる限り要介護状態にならず健康でいきいきとした生活を送られるよう支援する介護予防教室を開催した。(熱中症・インフルエンザ予防、認知症回想法など24回)</p> <p>○障害をテーマにまちなかゾーン会議を開催。議題を通じ、障害者福祉に関わる専門職と地域住民が互いに活動内容を理解し、相談できる関係を築くことができた。</p>	<p>【強みと考える点】</p> <p>介護予防教室をきっかけとする、地域住民の気軽にセンターに相談できる関係の構築</p>
		<p>【弱みと考える点】</p> <p>介護予防教室等の広報が不十分</p>